
I S 転生者の夢

狸吉商店

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 転生者の夢

【Nコード】

N6768Y

【作者名】

狸吉商店

【あらすじ】

俺死んじやった。テヘツで始まる物語。

「兄さん、おはよう。」

「ああ、おはよう。」

笑顔で挨拶をしてくれる我が妹奏。我ながらいい妹を持った者である。

「今日も学校？」

そうだよ、と笑いながら朝メシのトーストをかじる。いつも通りの朝、これほど気分がいいものはない。

鼻歌を歌いながら家を後にする。駅まで徒歩五分、実に近い。二分ほど歩いた時ふと、あることに気づく。

「あつ論文忘れるところだった。」

これでも東大生である。夢は殺人ウイルスを作ることである。

この目標のために毎日を一生懸命に生きている。

慌てて引き返し、論文を取りに行く。MYルームは日当たりのいい二階である。

そのために毎日つらい階段を上っている。

インドア派には実につらい。軽やかなステップで階段を上っていたそれが幸いして足は宙を舞った。少しの浮遊感、そして大きな衝撃。首から床に落下した。鉄板をたたいたような音がした。そして想像を絶するほどの痛み。

意識がブラックアウトした。畜生、まだ死にたくないよ。

1（後書き）

処女作なので暖かく見守ってください。

皆さんは「神」というモノを信じれるだろうか？

私は信じれない、いや信じれなかった。

一面白の変な場所につれてこられて一見じじいの「神」とやらに生まれ変わらせてやる。

チカラもやると言われた。だが俺の人生は神様達の遊びとなっているようだ。

だが同じ世界にはいけないらしい。俺の知らないどこかの世界のラダムで行くそうだ。

せっかくならもうとおうと言うことで厚意に甘えさせてもらった。

チカラは自由を選べた。学生は知識が必要。だからこの世の知識すべてよこせと言ってやった。そしたらこう言いやがったんだ。

「すべてはムリだね、すべてだと無限になってしまう。まあ少しならいいけどね」

あんまりない草にちよつとムカツときた。

「おい神、別にいいだろ。おまえ神なんだからどうにかしろよ。」

「ムリだよ」

この言い合いが数分続いた。

「じゃあ俺の部屋にあるゲームの知識にしてくれ」

「では、ガンダム00とSEED、ゴットイーター、マクロス全般とかになるがいいかな」

「ああ」

これほどの知識があれば世界も侵略できるんじゃないかと思う。でも「神」はこれでは少なすぎるといわれて追加でオラクル細胞とアラガミコア、V型ウィルスをもたらった。どうやら神様たちの遊びだそう。そして俺の運命に「転生」というのが入れられた。これは死んだらまた転生するというやつだ。でもチカラはその人生でどれだけ「神様達」を楽しませたかによって決まるみたいだ。でも、生まれた頃からこんなモノを持っていたらいろいろとヤヴァイと思う。だけど「神」がどうにかしてくれるらしい。

だけど話がすんだら突然おれを開く床で落としやがったんだ。

そしてただいま落下中である。気絶しそう。これこわすぎ。もう気絶しそう。とか余計なことを考えていたら突然の衝撃が襲ってきた。階段から落ちたのとは比べようにもならないほどの強さ。体がグチャグチャになった。なぜわかるのかというと、別の視点からこの顛末を見ていたのである。そして新しい俺のカラダは消えていった。

どこか暖かくそしてほのかに明るく、それでいてなぜか安心する、水の中のような浮遊感。ここにずっといたいと思わせる不思議な場所。そこは人間がみんな生まれる前に胎児として居るはずの場所、

子宮。俺は今そこに居る。きっと生まれ変わったんだろう。あれ本
当に神だったんだな。ちょっと安心した。
まあべつにいいや、一眠りしよう。

MYネームイズイオリア・シュヘンベルグちゃん三歳です。

毎日毎日同じことの繰り返しで参っちゃう。

三歳児はまだ脳の神経細胞が回路を作っていないはずで高度なことは考えることができないはずだし、感情も豊かではないはず・・・でもなぜかこの三歳児は生まれた瞬間からはつきりとした自我があったし、授乳の際の羞恥プレイも恥ずかしがっていたんだよ！

どうなつてんだよ！！の嵐である。

そしてそんな三歳児の夢はガンダム00のイオリアと同じく人類の宇宙進出です。

オス！オライオリア 宇宙に行くと思うとわくわくすつぞ！！さらに神様にもらったV型ウィルスは腸に定着したし、

アラガミコアはどうやら僕の心臓として動いてるみたい。一応精密検査されてもばれないようになっていきます。オラクル細胞は僕の体として動いています。

僕のコアが指令系統の中枢であり、脳は通常の脳と同じく判断とか下してます。人と道具の関係の

ように脳が人、道具が僕のコア（心臓）となっています。コアの中にマクロス、ゴットイーター、ガンダムのデータが入っています。体の中にコンピュータが入っているようなものです。V型ウィルスも制御下においているので今すぐバシユラとも対話ができそうです。でも肝心なバシユラが居ません。トホホ

オラクル細胞を利用してアラガミ化もできるし、

コアが制御下においたオラクル細胞ならどんな形にも変形させれますし、捕食形態にも神器？も生成ができます。オラクル細胞の本能「進化」も健在で捕食で得たデータをコア内部に蓄積することできます。食べ物も食べなくても生きていけますし、無機物も食べることができます。もう最強ですね。

一般的な知識は東大を受験下時点で持っていたのでIQは150はあるかと思っています。

この世界が何の世界かわかりませんががんばって生きていきたいです。

3 (後書き)

ネタがないっちゅうね

「アメリカ合衆国」

藍色の油を垂らしたような指に纏わり付くような暗い空、その空から生まれる純白の雪、
落ちてゆく雪を赤黒い炎が照らし、その光景を見つめる小さな子供。
赤く黒い炎を作る小さな家、子供は泣いていた。

「行ってきます。」

茶髪の小柄の少年は言った。
その声に応えるもう女性の声。

・
・
・

・
「早く帰らなきゃ、せつかくお父さんが帰ってきたのに・・・。」
彼の父親はマシンテック社の社長。軍の兵器の四割を製造している。
いつもなら父親は帰らない日が多い、だが今日は彼の誕生日だ。
息子を祝うために仕事を早めに切り上げて帰っていた。

少年が白い山道を急いでのぼる。

何度もころびそうになりながら。その少年は歩いて行く

木々の間から降ってくる雪を浴びながら少年は歩いて行く。

あと少しで我が家だった。

視界が何千ものシャッターを一度に切ったような激しい色に覆われる。

そして爆音。木々の破片が落ちてくる。

「えっ!？」

少年は走っていく。何度も見てきた白いポスト、そこを曲げれば帰り着ける。

だが、そこにあつた景色は初めて見る光景だった。

砕けた屋根。押しつぶされた母屋。燃え上がる炎、見覚えがある家はどこにもなかった。

何度もまぶたをこする。頬をつねる。

八年間過ごした見紛う事なき我が家。今朝、いつもと変わらず自分を送り出してくれた。

でも、

もう無い。

あの家は無くなった。

目の前にある黒く焦げたガレキの山。

少年、イオリアシュヘンベルグはこの日、両親を失った。

淡い微睡みの中、少年は目覚める。
窓から差すほのかな色、

「もう朝か・・・」

もぞもぞとベットから這い出る。冷気が肌に突き刺さる。のそのそと洗面所へ行く。

冷たい水を顔にぶつける。頭の奥にあった眠気は水とともに流れる。

「おはよう。」

「おはよう、今日は早いわね。」

この世にただ一人しかいない母親。他愛もない話をしながら朝食をとる。

やがて時間を知らせる鐘が鳴る。

「行ってくるね」

行つてらっしゃい。と答える声。

遅れてしまうよ。と言う。

わかつてるよ、じゃあ行ってくるよ。

今日もいつもと変わらない。つまらない毎日が続く。

でも家に居るときは違う、母さんがいる、クッキーを食べながら今日あったことを伝える。

母さんはその間笑っている。その笑顔を見ているだけでよかった。走る。今日は早く帰ろう。母さん達が待ってる。

今日は僕の誕生日だ。楽しみだな。

突然の爆音。遅れて木片が降ってくる。

音は家の方からした。不安だ。大丈夫だろうか。

「はあっはあっ」

見覚えのある曲がり角。あそこを曲がればいつも通りの家がある。ドアをくぐれば母さんと父さんがいる。そしてただいまと言う。それだけだ。

そこにあつたのは壊れた我が家。変わり果てているけど知っている、今朝までいた我が家。

でも、もうない。たった一つだけの居場所は消えた。

「嘘っ・・・だろお・・・あああああああああ！！」

あふれ出してくる涙、力が抜けていく。膝が折れた。ズボンが雪に

埋もれる。

少しずつ霞んでいく視界。頭の奥で何かが麻痺するような感覚。ただ。どうし？と、なんでこうなったの？

大声で叫ぶ。やがて喉がつぶれる。声は出ない。でも意識はある。あいたまま閉じないまぶた。燃えていく我が家が焼き付く。

そして、何かが切れる音がした。

ベットから起き上がる陰。

ふらふらと歩いて行く。

ドアを開けその中に入っていく。

鏡を見る。その鏡に映るのは一筋の涙。

「母さん、父さん……」

両親を失ってから四年経った。

「でも僕はまだあのときのままだよ。」

父親を殺したのは反アメリカのテロ集団。

同胞達を殺したのはおまえが作ったモノだぞ。だから天罰を下した。

と、

そして私は父の会社を継いだ。

今では「稀代の天才」、「殺人者」、「棺桶売り」

そう呼ばれている。皮肉なものだ。

でもそのおかげで私は目標を達成しようとしている。

あと、少しだ……。こんな世界なんか壊してあげるよ……
母さん。待っててね。

4（後書き）

主人公が歪んじまった。

「第一段階準備完了・・・。」

機械が乱雑に置かれた空間で少年はつぶやく。

その青年は誠実そうな顔つきをしている。だが、どこかが歪んでいるようにも見える。

目には隈ができ、服はずっと着たままなのか。頼りない。

「第一段階、石油エネルギーの枯渇。」

私のやっていることは人類に対する反逆だろう。と、彼は笑う。

ソレスタルビーイング、イオリアシユヘンベルグ。

彼は、アメーバ状のアラガミを散布し、V型ウィルスが発生させるフォールド波によって地下に眠る石油エネルギーだけを壊滅的な状況に追い込もうとしている。そして「準備完了」とは世界中にアメーバアラガミが散布できたことを示す。だがこの段階でのアラガミの発見は計画に支障を来す。だからV型ウィルのフォールド波を使用する。アメーバアラガミをコントロールし、狡猾に、迅速に地下エネルギーを破壊していく。これにより世界は混乱する。そして戦争が始まる。

「捕食率2パーセント。」

このまま行けば一週間もあれば完了する。

「あははははー」

あと、もう少し、もう少しだ。
そして、ソレスタルビーイングによる人類の意思の統一。
これで世界が変わる。

「こちら、サウジアラビアです。ここ最近サウジアラビアでの石油の採掘量が低下してきています。

石油生産国でも同様の現象が起こっています。」

世界各地で地下エネルギーが消失していく、そして世界は原子力、水力、風力、バイオ燃料などの資源を生産し始める。だが増えすぎた需要に生産がついて行かず、エネルギーは値上がりしていく。

だが、稀代の天才、イオリアシュヘンベルグが太陽光発電の基礎理論を発表した。

これにより、世界は太陽光発電を主軸としてエネルギー政策を展開させる。だが、この理論は一部の先進国、アメリカ、中国、ロシア、日本、などの国でしか公表していない。石油で発達した中東諸国は内紛が起こり、世界は三つの国家群に分かれる。アメリカを中心とする世界経済連合、通称、「ユニオン」、中国、インド、ロシアを中心とした、「人類革新連盟」、通称人格連、そして新ヨーロッパ共同体「AEU」

新エネルギー政策に乗り遅れた国々は滅んでいく。

新たな資源を求めた「木星探査船団」。

半永久的にエネルギーを得る、1世紀半の時間をかけた「軌道エネルギーター」、
「太陽光発電衛星」

これを守る、

A E U、イナクト

人格連、ティエレン

ユニオン、フラッグ

そして、各国家は時刻の威信をかけてゼロサムゲームを続ける。

あるところに。仲のいい二人の双子の姉妹が居ました。

彼女達は裕福でした。お父さん、お母さんが、一生懸命働いてくれました。

そのおかげで二人は元気に育ちました。

でも、彼女たちの両親は事故で死んでしまいました。

妹も事故に巻き込まれましたが帰ってきました。

両親が残した遺産。それにたかってくるアリたち。

悲しみに沈む彼女たち、そこへ、お迎えがきました、妹はどこか遠いところへ行ってしまうました。

お姉さんは、私のせいだ、私がこんなに泣き虫だから妹が連れて行かれたのだ、と、思いました。

お姉さんは努力しました、勉強、スポーツ、何でもがんばりました。

でも、妹は帰ってきませんでした。

そして、一人のまま時間は過ぎていきます。

それはソラから落ちてきました。

赤い尾を引いて。落ちてきたのは「ニホン」というところ。

日本政府はそれを調査しました。最初は人工衛星かと思われました。

でも、違いました。ヒトの形をした金属の塊でした。

研究員が触った瞬間ソレは起動しました。研究員に纏わり付く「鎧」のような物体。

研究員たちは驚きました。

そして「ソレ」を解析しました。

すると、どうでしょう。

それは兵器でした。

日本政府はこれを隠蔽しました。

隕石だった、と。

日本政府は危惧しました。

宇宙には巨大な科学をもった文明があるのではないか。

「コレ」を報告すれば、宇宙についての情報を保持している国に「これ」を奪われるのではないか？

そして、その異物は限られた科学者によって、解析されていました。

それは alien's weapon、AW1と名付けられました。

そしてこの事件により、日本は宇宙進出を始めました。

ある日、とある天才が人型の兵器を作りました。

それはインフィニットストラトス、ISとよばれるものの人の形をした兵器でした。

だが、学会はコレを否定しました。

そして起こったのが「白騎士事件」、日本の東京に向けて2300発のミサイルが発射されました。

だが、その半数以上を「白騎士」、と呼ばれる兵器が撃墜した。

それを鹵獲しようと、大量の戦闘機や軍艦が投入された。だが、すべて撃墜されました。

これにより、ISという兵器は世界に関心を示します。

ですが、ISは不完全の兵器、女性にしか使えません。

これが原因で女尊男卑の世界となりました。

開発者は日本人であつたため、政府は情報を隠蔽しました。

そして、政府は驚愕しました。

白騎士に使われていた核となるものがAW1の核とまったく言うていいほど一緒でした。

このことにより、制作者、篠ノ之束は指名手配されました。

ですがAW1の核を使用した兵器は男性でも使用できました。ですが、AW1はある事件により消失しました。

そしてアラスカ条約が発表されました。日本政府は白騎士のデータをすべて世界に渡しました。

でも、AW1のデータは公開されませんでした。

そして、ある日、男性でISを使用できる人間が現れました。

7 (後書き)

やっと前置きが終わったヨ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6768y/>

I S 転生者の夢

2011年11月24日18時57分発行